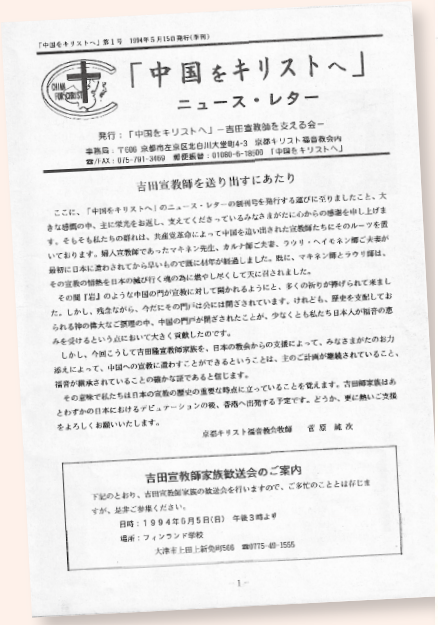
グレイト・コミッション

吉田隆・恵利子宣教師を支える会　第100号　2024年8月25日発行

発　行：グレイト・コミッション 吉田隆・恵利子宣教師を支える会　郵便振替：00910-3-210061 グレイト・コミッション
事務局：〒606-8274　京都市左京区北白川大堂町4-3　京都キリスト福音教会内　FAX 075-791-3488

宣教30周年、100号記念！

吉田　隆


「中国をキリストへ」第1号　1994年5月15日発行(季刊)

「中国をキリストへ」
ニュース・レター

発行：「中国をキリストへ」－吉田宣教師を支える会－
事務局：〒606 京都市左京区北白川大堂町4-3　京都キリスト福音教会内
電/FAX：075-791-3488　郵便振替：01080-6-18089「中国をキリストへ」

吉田宣教師を送り出すにあたり

ここに、「中国をキリストへ」のニュース・レターの第1号を発行する運びに至りましたこと、大きな感謝の中、主に栄光をお返し、支えてくださっているみなさまがたに心からの感謝を申し上げます。そもそも私たちの始まりは、共産党革命によって中国を追い出された宣教師たちにそのルーツを置いております。婦人宣教師であったマキネン先生、カルナ師ご夫妻、ラウリ・ヘイモネン師ご夫妻が最初に日本に遣わされてから早いもので既に45年が経過しました。既に、マキネン師とラウリ師は、その宣教の情熱を日本の滅び行く魂の為に捧げしめくして天に召されました。

その頃『岩』のような中国の門が宣教に対して閉かれるようにと、多くの祈りが捧げられて来ました。しかし、残念ながら、今だにその門は分には開ざされています。けれども、歴史を支配しておられる神の偉大なご摂理の中、中国の門戸が開ざされたことが、少なくとも私たち日本人が福音の恵みを受けるという点において大きく貢献したのです。

しかし、今回こうして吉田隆宣教師家族を、日本の教会からの支援によって、みなさまがたのお力添えによって、中国への宣教に遣わすことができるということは、主のご計画が継続されていること、福音が継承されていることの確かな証であると信じます。

その意味で私たちは日本の宣教の歴史の重要な時点に立っていることを覚えます。吉田師家族はあとわずかの日本におけるデピュテーションの後、香港へ出発する予定です。どうか、祈に熱いご支援をよろしくお願いいたします。

京都キリスト福音教会牧師　菅原純次

吉田宣教師家族歓送会のご案内

下記のとおり、吉田宣教師家族の歓送会を行いますので、ご多忙のこととは存じますが、是非ご参集ください。

日時：1994年5月5日(月)　午後3時より
場所：フィンランド学校
大津市上田上新免町566　☎0775-48-1555

私が初めて、中国への宣教についてメッセージを聴いたのは、1981年の8月だったと記憶しています。それは、1949年に共産化した中国を追い出されて、主によって京都に導かれたフィンランド人、カルナ宣教師の日本での送別メッセージでした。カルナ師は日本での働きが30年余りとなり、退職の時を迎えていらっしゃいました。「中国はいまだに共産主義の国でキリスト教の宣教師を受け入れません。しかし、あなたがた日本人が人民服（中国人の制服）を着るならば、奥地にも行けるかもしれません。宣教師としてではなくテントメーカー（一般の仕事を持った人）として。」

その時、この招きに応じて講壇に進み出た若者たちの中に妻が居たそうです。私たちはまだ結婚に導かれていませんでしたので、後からそのことを知りました。やがて私たちは1984年4月に結婚に導かれました。今年、結婚40周年を迎えました。

宣教30周年、100号記念!　吉田　隆 1-3
日本巡回奉仕／報告　吉田　隆 3
通り過ぎた日々に感謝しつつ　吉田宣教 4
宣教と霊的な戦い①　吉田恵利子 5
グレイト・コミッションを読んで　福留正明 6
感謝とご報告・祈りの課題 6

中国への召しを確認して

その後献身して、京都で伝道師の働きをしている間に、長男・啓示と長女・摂理が与えられました。そして、宣教の学び、英語の学びと派遣の方法について研鑽を積むためにアメリカのシアトルに行きました。そこで次男・宣教が与えられました。

1994年6月5日歓送会フィンランド学校

1993年８月に日本に帰国をして、１年間日本の諸教会を巡回して、宣教へのご支援を呼びかけました。ちょうどその頃日本には、カナダ・トロントのエアポート・チャーチからの影響による、リバイバルの雰囲気がありました。しかし主から、使徒の働き８章26節から『「エルサレムからガザに下る道に出なさい。」そこは荒野である。』というみことばを頂き、たとえ中国に行くことが、どこに行くか当てのない、荒野に行くように思えることであるとしても、み声に従うことが主の道であると信じて、従いました。

１号発行から帰国まで

1992年11月上海へ短期宣教旅行

1994年５月に「中国をキリストへ～吉田隆・恵利子宣教師を支える会」の第１号が発行されました。その８月に、妻と子どもたち３人を連れて香港に到着しました。中国から始まった世界宣教へのチャレンジは今年で30年を迎えることになりました。アジア・アウトリーチの中国部に籍を置いて、中文大学で中国語を学びました。日本から聖書を持って国境を越え、中国本土に行ってくださる方々を引率しました。

中国の家の教会や三自愛国教会に出かけて行き、必要な物を届けたりしました。中国国内での聖書印刷にも関わりました。短期宣教師が英語キャンプをする運営もしました。

1997年12月家族でサムエル・ラム師と面会

香港在住時に、第４子が与えられ成就と名付けました。香港では、キリスト教主義のたんぽぽ幼稚園で開拓されたばかりのチャーチ・オン・ザ・ロックという日本語教会で牧会と伝道のお手伝いをさせていただきました。

1997年７月１日、香港はそれまでの英国領から中国本土に返還されることになっていました。香港では、あたかも世の終わりかのごとくに、外国から著名な説教者を招いての大会や、全戸へのトラクト配布などがなされました。香港に住む日本人のためには、日本語の冊子も配られました。

1997年中国・温州家の教会訓練

香港での滞在が７年を迎え、長男の高校進学を前に、私はその後の方向性を決める決断を迫られました。経済的にも宣教を続けるのが困難な状況も重なりました。アジア・アウトリーチの中に、ＧＣＩ（グレイト・コミッション・インスティテュート／大宣教命令学院）というアジア各国の教会開拓者を養成するための働きがあります。私は中国部門からそちらへの転籍を願い出て、しばらくの検討の後申請が受け入れられました。ちょうどＧＣＩは過渡期にありました。それぞれのリーダーが責任の国を担当することになり、私はモンゴルとミャンマーの責任者となりました。この二つの国へは香港よりも日本からの方が出かけ易いことが分かり、宣教の拠点を京都に戻すことにしました。そこで、働きが中国からアジア全体に拡大することになり、ニュースレターの名前を「アジアをキリストへ」と変更しました。

2000年帰国を前に香港で

75 号からグレイト・コミッションへ

ＧＣＩでの働きは、パキスタン、ネパール、スリランカ、カンボジア、ベトナム、マレーシアなどへと拡大しました。更に、WMC（世界宣教委員会）の日本代表としての任務も仰せつかり、アジア以外にも出かけていくようになりました。そこでニュースレターは、第 75 号（2016 年 3 月発行）から「グレイト・コミッション」という名前に変わりました。1994 年 5 月 15 日に「中国をキリストへ」第 1 号が発行されて以来 30 年を経て、今回 100 号を迎えることができました。

私たちの 30 年間の宣教の働きがここまで守られてきましたのは、主の憐れみと恵み以外のなにものでもありません。踏み出した頃には十分に理解していませんでしたが、多くの危険の中を家族が守られてここまで来ることができたのは、小さな者たちを覚えてくださっている方々の執り成しの祈りがあったからこそであると、今は良く分かるようになりました。そして、妻が心を注いで子どもたちを育ててくれましたので、子どもたちが主に仕えてくれていることを感謝します。

あらためて、これまでの皆様のご支援とお祈りを心から感謝いたします。今後とも、世界宣教と日本の伝道の働きを続けてまいりますので、どうぞよろしくお願い致します。

スタンレー師と西日本巡回

マレーシアのスタンレー・ジェラード師は日本を愛して、度々来日を重ねてくださっていましたが、コロナ禍もあり 2019 年 11 月の来日からしばらく日本を訪問することが出来ないでいました。しかし 4 年半ぶりに西日本の諸教会を訪問してくださいました。私（吉田隆）も通訳兼運転手として、2024 年 5 月 25 日から 6 月 10 日まで、京都府、大阪府、奈良県、兵庫県、岡山県、広島県、徳島県、愛媛県、香川県、高知県にある 16 教会を巡回させていただきました。

スタンレー師は、多くの教会でメッセージの後に時間を割いて求めるひとり一人のために長い時間をかけてお祈りをし、必要に応じてアドバイスを分かち合いました。ある教会では、夜の集会が 9 時に終わってから、２時間以上にわたって個人的なお祈りがなされました。

コロナ禍を経て、世界の教会は新しい段階に入っていることを語ってくださいました。

時間をかけてお祈りするスタンレー師

沖縄巡回奉仕

ヘブンズチャーチでの合同集会

恵利子と私は、2024 年 6 月 29 日から 7 月 14 日まで沖縄県の諸教会での礼拝、合同礼拝、宣教集会、伝道集会、チャペル・コンサート、オリブ山病院創立 66 周年記念礼拝、ＫＧＫ（キリスト者学生会）集会、キリスト教書店でのコンサート、ワールド・ミッション・クリスチャン・スクールなどで奉仕をさせていただきました。

本土が梅雨の時期でしたが、沖縄は 100 年に一度という大雨が過ぎ去った後で、すでに梅雨明け宣言が出されていました。例年の夏よりも気温が高い上に、陽射しが非常に強く暑い毎日でしたが、沖縄の教会は熱く燃えて、リバイバルに対する大きな期待を感じました。

また、カフェなどを通して伝道をしている教会やこれからカフェを始めようとする教会もあり、その一つチャーチ・オン・ザ・ロックのガーデン＆カフェのために恵利子が 3 枚の看板に文字と絵を描かせていただきました。

通り過ぎた日々に感謝しつつ

吉田宣教

私が大学生の時のことです。私の生い立ちを説明した時、「だからか。君は言語の変換に間を要しているんだね。」と仲の良かった英語の先生は言いました。私は‘92年12月にアメリカで生まれ、8か月で日本に。その1年後、香港に移り住んだのです。私の頭の中は混乱していたのか、発語が随分遅く、心配されたようです。なぜこんなに移動したかというと、父がアメリカの聖書学校にいた間に私が生まれ、中国宣教へ行く前の1年間日本でデピュテーション（巡回）をしていたからです。

その後、2000年に家族で日本に引っ越しました。私たち子どもの教育のため、父の働きが中国からアジア全般となったためです。私にとって物心ついてはじめての日本は新鮮でした。水道の水をそのまま飲んでも大丈夫ですし、香港には降らない雪が降るのです！私は大喜びでしたが、雪をそのまま触ると霜焼けになることも、その時初めて知りました。(笑)

父はアジアの国々に短期宣教へ行き、日本へ戻ってくると国内各地の教会へ宣教報告をします。宣教報告には家族もよく連れて行ってくれたので、家族6人で一台の車に乗って、色々な教会へ奉仕に行くのが楽しかったのを覚えています。小学生の時、八尾福音教会へ家族で奉仕に行き、リコーダーを演奏したことがあります。私は今、その八尾福音教会で中学から始めたトランペットを吹いています。社会人になって一人暮らしを始めた家に近かったからです。

現在に至るまで、人生に色々なことがありましたが5歳の頃の一つのエピソードが全てを象徴しているように感じています。

保育所からザリガニ釣りに行きました。私はだれか

八尾福音教会にて奉仕（私は左から3人目）

が「釣れた！」という声のする場所に行っては、そこで構えるということを繰り返している内に、結局ザリガニを1匹も釣れずに終わり、悲しみに打ちひしがれて帰宅しました。しかし宣教師の子どもの問題に、「アイデンティティー・クライシス（自己認識の危機）」というものがある、ということを学んでいた母はその様子を見て、これではいけないと思ったそうです。保育所の先生から池の場所を聞き出して、次の休みの日に、家族みんなで、同じ場所に行きました。今度は走り回らず同じ場所でじっとザリガニを待ちました。すると、バケツをいっぱいになるほど釣れました。そこには、家族全員がいて、みんなでザリガニ釣りを楽しみ喜ぶことが出来たのです。

周りの声に惑わされるのではなく、神様の時をじっと忍耐して待つ時、そこには助けが用意されており、普通では得られないような祝福が注がれてきた人生でした。これからも主に期待します。

ザリガニ釣り

宣教と霊的な戦い ①

吉田恵利子

「あなたがたは、光に照らされた後で苦難との厳しい戦いに耐えた、初めの日々を思い起こしなさい。」

（ヘブル 10：32）

私たちが宣教に遣わされた頃は、霊的な戦いというものを充分に理解していませんでした。私たちは宣教地である香港に遣わされた直後から次々と起こって来るさまざまな困難と向き合わされることとなります。それらは、敵が私たちを日本に追い返そうとしているために起こった出来事だ、とは考えにも及ばなかったのです。

30 年前は現在のように LINE で動画を送ったりすることはできませんでしたし、国際電話をかけたりすることも容易ではありませんでした。ですから、こちらの事情を詳しく日本にお伝えすることには限界がありました。それでも主の守りをいただき、ここまで宣教の働きを続けさせていただくことができましたのは、主の憐れみとお支えくださる皆様の執り成しの祈りがあったからこそです。

今回 100 号発刊にあたり、私たちが出会ったことがらのいくつかを記させていただきたいと思います。

高圧電流逆流事件

香港到着後、現地の方の助けを得てアパート探しから始まりました。必要な電化製品を購入して、狭いアパートでの生活が始まりました。日本の住居はウサギ小屋と揶揄されますが、香港はもっと狭くハツカネズミ小屋でしょうか。私たちが住み始めたのは８月、家々の入り口から立ち込める線香のニオイ、薬草茶や八角などの香辛料を煮詰めるニオイ、街市（市場）に吊るされた肉や魚のニオイが入り混じる。連日の蒸し返す暑さの中です。そんな時、私たちが住み始めた部屋に高圧電流が流れ、「バン‼」という大きな音と共に、焦げ臭い臭いが立ち込め、すべての電気製品が壊れてしまいました。普通ならばブレイカーが落ちるはずなのに、照明や電気製品がみな壊れたのです。エアコンや冷蔵庫が壊れ、調理も電気コンロだったために、子どもたちのお弁当も作ることができず、しばらく中国へ聖書を運ぶために香港へ来る方々が滞在するヨシュア・ロッジと呼ばれるところに避難しなければなりませんでした。

この事態が起こったのは私たちが住んでいる部屋だけだったのです。普通は起こり得ないことが起こることは謎でした。最近になって事件に詳しい方から、こうした事は故意に起こさなければありえないが、エレベーターの高圧電流を部屋につなぐ場合に起こり、もしその時に電気製品に触れていたならば感電して死亡していた、ということがわかりました。

麻雀机落下事件

香港の人々は、日本人より大きな声で話す人が多いと思います。飲茶が大好きで、食べながら話す人の話し声と食器の音で騒がしく、麻雀をする人も多いようですが、こちらも大きな音を発します。ある時町を歩いていた時、あと一歩足を踏み出すところを、主に止められて立ち留まりました。すると上からバチバチバチとすごい勢いで、高いビルの上から、何かが落ちてきました。麻雀の机と牌が落ちてきたのです。負けた人が腹いせに投げたのでしょうか？ 当時は窓から、ゴミや壊れた電化製品など何でも捨てる人がありました。落下の勢いがついていますから、もし当たっていたら非常に危険でしたが、危機一髪のところで守られました。

宣教地で、日本では考えられないようなことが続けて起こります。これら以外にも次から次へと困難が押し寄せる中、皆様のお祈りとお支えによって守られてきたことを感謝します。

吉田恵利子クリスマス個展 V

2024年 11月23日㈯～12月5日㈭ 11時～17時（金曜日はお休み）

ミニコンサート 11月28日㈭ & 12月5日㈭

ギャラリー 楽心庵 & Café IORI 〒520-0113 滋賀県大津市坂本６丁目 26-45 TEL 077-548-8554

吉田恵利子クリスマス個展 in Kyoto I

2024 年 12 月 10 日㈫～ 12 月 14 日㈯ 11時～17時 ミニコンサート 毎日 12:30&15:30

救世軍京都小隊ヴォーリズホール〒600-8005 京都府京都市下京区富小路通四条下る徳正寺町３７TEL:075-343-3726

グレイト・コミッションを読んで

ハレルヤ！ 記念すべき発刊 100 号、おめでとうございます。

吉田隆先生、恵利子先生の尊いお働きと、豊かで香り高い実りのゆえに、御名を賛美致します。

私たちの教会では、「世界宣教は教会の窓」と考えてきました。どんなに家が立派で美しくても、もし窓がなかったら外の空気を取り入れることができず、息苦しくなります。もし教会で世界宣教の働きをしないとすれば、窓のない教会を作ることになると話し合ってきたのです。教会には、世界宣教に関わる働きが必要なのです。

吉田先生ご夫妻とのお交わりは、先生方が初め、中国への宣教に遣わされて行かれる時からで、30 年前から途切れることなく続いています。先生方のお働きは、益々深められ、今はアジア各国からヨーロッパにまでその翼は大きく広げられています。

その豊かさを感謝と驚きをもって見させていただき、その恵みの中に招いていただいて、教会の大切な“窓”の一つになってくださっています。

「神よ。あなたが、天であがめられ、あなたの栄光が、全世界であがめられますように。」（詩篇 57 篇 5、11 節）

JEC（日本福音教会）堺福音教会
牧師　福 留 正 明

感謝とご報告

- 吉田恵利子宣教師の個展「風のしらべ XI」が、2024 年 3 月 5 日から 10 日まで、京都市中心部のギャラリー・ヒルゲートで開催されました。
- 吉田隆 ＆ 恵利子宣教師は、2024 年 4 月 13 日から 21 日まで、山梨県と静岡県の諸教会を巡回いたしました。
- 吉田隆宣教師は、スタンレー・ジェラード師と諸教会を巡回いたしました。（本文 P3 掲載）
- 吉田隆 ＆ 恵利子宣教師は、沖縄県を巡回奉仕いたしました。（本文 P3 掲載）
- 吉田隆宣教師は、7 月 31 日から 8 月 5 日までタイとミャンマーの国境にあるメサイ市に遣わされ、ミャンマー人の 21 人の牧師の訓練のために奉仕をいたしました。（報告は次号掲載予定）

祈りの課題 （以下の祈祷課題を覚えてお祈りいただければ幸いです。）

- 吉田隆 ＆ 恵利子宣教師は 9 月 9 日から 16 日まで、インドネシアのジャカルタに行き、PAM（ペンテコステ宣教会議）参加とジャカルタ JCF（ジャパニーズ・クリスチャン・フェローシップ）に奉仕します。
- 吉田恵利子師は、11 月 23 日から 12 月 5 日まで大津・坂本のギャラリー楽心庵で第 5 回クリスマス個展が開催されます。今年はそれに続き 12 月 10 日から 14 日まで京都市の繁華街近くにある救世軍京都において初めてのクリスマス個展を計画しています。
- 吉田成就兄は、KBI（関西聖書学院）卒業後、4 月末から 6 月末まで TICF（東京インターナショナル・クリスチャンフェローシップ）でのインターンを務めた後、9 月から大阪府八尾市の八尾福音教会でインターンの働きに就きます。
- バングラデシュに教会堂を 6 つ建設するための献金をお願いしました。その結果、450 万円ほどが日本国内で捧げられています。海外送金は始められていますが、一般的に海外送金が非常に難しくなっている上に、7 月末時点で、バングラデシュの国政に大きな混乱が起き、一般市民もインターネットが使えなくなっています。（このためにお捧げくださる方は、振替用紙に「バングラデシュのため」とお書き添えください。）
- 吉田隆 ＆ 恵利子宣教師の宣教 30 周年記念と結婚 40 周年を兼ねてイスラエル聖地旅行の計画が立てられています。しかし、イスラエル国内での戦争が終わらぬ状況が続いています。更に円安のため旅行が難しく、現在のところ、来年まで延期されることになるかと思われます。戦争の早期終了、政情の安定と旅費の予算が満たされますように。（このためにお捧げくださる方は、振替用紙に「聖地旅行のため」とお書き添えください。）